



●発行日 平成30年5月6日
●発行者 可児市
岐阜県可児市広見一丁目1番地
Tel: 0574-62-1111
本書の内容を無断で複写、複製する事を禁じます。

可児市子育て健康プラザ
ガイドブック「マーノ」
第1号 2018年5月発行

可児市子育て健康プラザ ^{マノ}maño 誕生!

『可』能性あふれる『児』どもがそだつまち・可児'に、総合的な子育て支援、健康づくり、多世代交流の新たな拠点「可児市子育て健康プラザ」がオープンいたしました。施設の愛称は「^{マノ}maño」、イタリア語で「手」を意味します。^{マノ}mañoでは、市民、地域、行政が『手』を携え、様々な方法で多様な市民サービスを展開します。市民の皆さん同士が「手」をつなぐ、多様な人々が「手」と「手」をつなぐ、そんなつながりが広がるひろばであることをめざしています。気軽にお立ち寄りいただき、差し出される手を大いにご活用いただいで、可児市の新しい子育て、健康づくりを共に進めましょう。



可児市長 富田 成輝



Contents

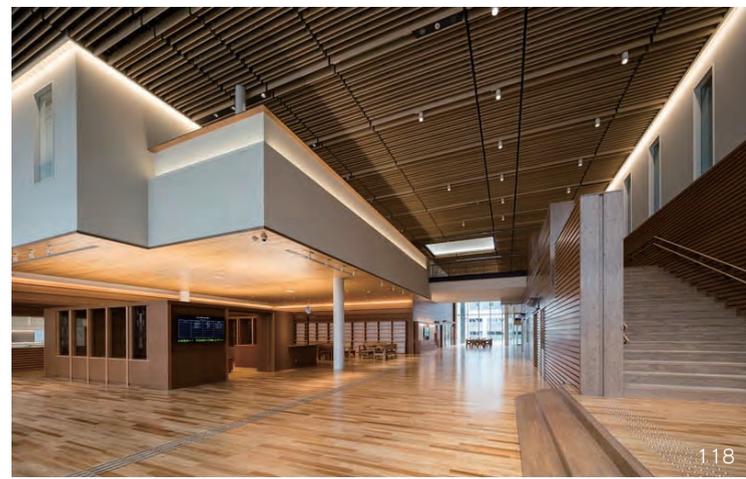
- 2 ごあいさつ 可児市長 富田成輝
- 4-7 1F フロアご案内
- 8-9 2F フロアご案内
- 10 3F フロアご案内
- 11 可児市子育て健康プラザ ^{マノ}mañoが目指すもの
- 12 愛称について
可児市子育て健康プラザ「^{マノ}maño」
中央児童センター「にこっと」
- 展示物のご紹介
海老衣子と「ヘビーブック」
中山七里氏メッセージ
- 13 ステンドグラス
岐阜県産材の木材を使用
カフェレストラン iMakoya
- 14 建築家 香山壽夫氏・メッセージ
建築概要
- 15 Information

【そとのひろば】

- 駅前からの人を迎え入れるシェルターを設けた広場です。
- 雨や強い陽射しから人々を守り、屋外イベントにも利用できます。



そとのひろば



118



117

なかのひろば

【なかのひろば】

- 吹き抜け天井から光が降り注ぎ、視線が通り抜ける気持ちの良いリビングのような空間です。
- 木の調度品に囲まれ、絵本や子育て・健康づくりに関わる書籍等を読みながらゆったりと過ごすことができる「みんなの書斎」、プライバシーに配慮し安心して授乳・おむつ交換できる「授乳室」、さまざまなイベント等の情報を得られる情報コーナーを配し、市民の憩いと交流の場になります。

西棟 1F



mano



128

カフェレストラン



130

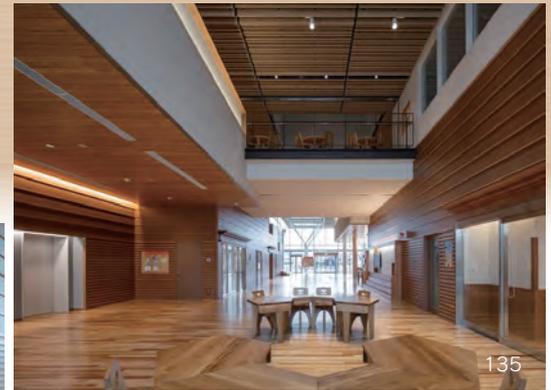
【カフェレストラン iMakoya (いまこや)】

- 駅前に面した、明るく木のぬくもりを感じられるカフェレストランです。
- 子育て中の親子が気兼ねなく楽しく食事をする事ができるとともに、駅利用者等が気軽に立ち寄り、待ち合わせや電車の待ち時間にも利用できます。
- 軽食やドリンクのテイクアウト販売も行います。

東棟 1,2F



121



135

上/なかのひろば みんなの書斎
下/なかのひろば 健康スタジオ前より



授乳室

【クッキングスタジオ】

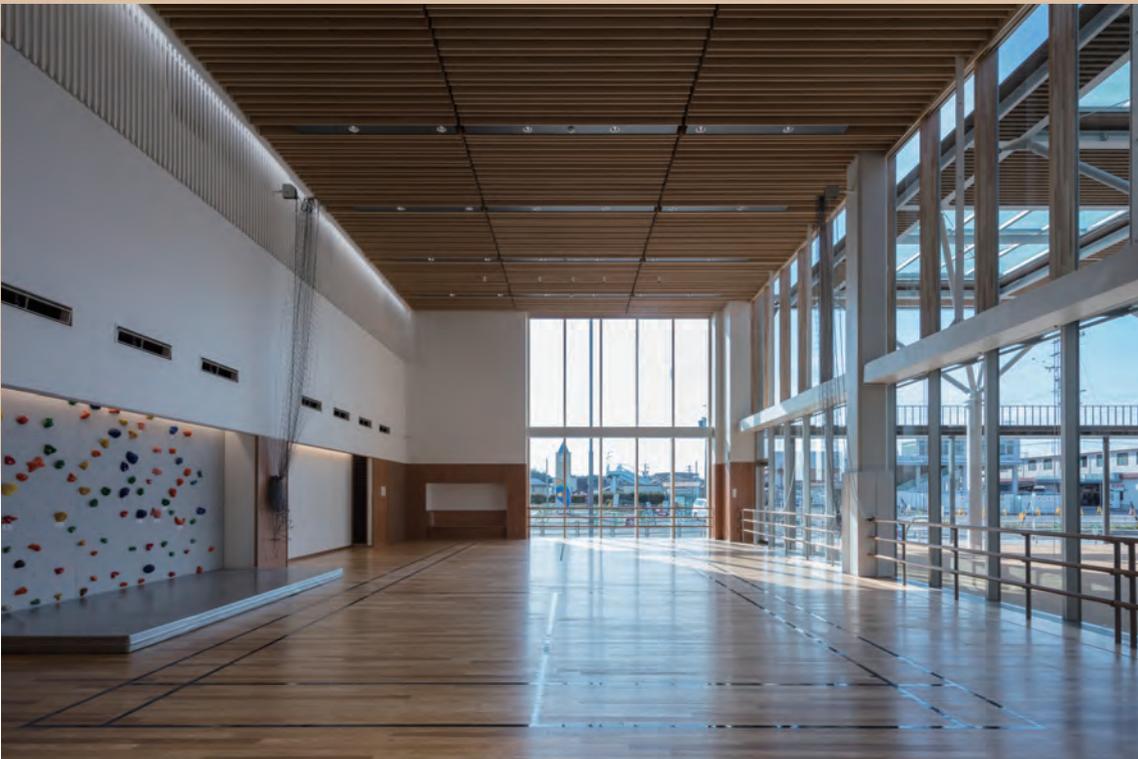
- なかのひろばに面してガラス窓を設けた開放的な調理室です。
- 離乳食教室や成人の栄養指導等の食育を行うとともに、食に関わる様々な活動の実践の場となります。



クッキングスタジオ

【中央児童センターにこっと】

- 18歳未満の子どもの対象とし、遊びを通してその健康を増進し情操を豊かにすることを目的とした施設です。
- 岐阜県産材をふんだんに取り入れたぬくもりある内装としています。乳幼児とその保護者を対象とした活動を行う「幼児室」、クライミングウォールを備え、子どもがのびのびと遊び、体力づくりができる「遊戯室」や、読書や自主学習ができる「読書室」を備えています。
- 午後9時まで開館することで、中高生の居場所づくりにも取り組みます。



中央児童センターにこっと



健康スタジオ

【健康スタジオ】

- 外部に面して大きな窓をもつ、明るく開放的な運動スペースです。
- 市民のライフステージに合わせ、マタニティヨガや年代に応じたエクササイズ等の健康プログラムを行います。

【manoショップ】

- 市の観光情報の発信に加え、特産品や来館者向けの商品の展示・販売を行います。
- 施設全体のインフォメーション機能も併せ持ちます。

mano



中央児童センターにこっと



manoショップ

【事務室・相談室】

●子育て支援や健康づくりに関する市の担当部署を集約しています。妊娠期からの子育てを総合的に支援する子育て世代包括支援センターとしても位置づけています。



144

右に事務室・相談室



150

ラウンジ



連絡通路



絆る〜む

【子育てサロン 絆(きっずな)る〜む】

●可児川を望む大きな一軒家のような空間です。乳幼児とその保護者がゆっくりとくつろぎ交流しながら、様々な子育てに関する情報も得られる場です。



164

西棟 2F



【研修会議室1・2】

●子育てや健康づくりに関する講座・研修・会議等に利用できる部屋です。
●可動間仕切りにより大会議室としても利用可能です。



研修会議室1・2



市民支援室

東棟 3F



【市民支援室】

●子育て支援や健康づくりに関わるボランティアや市民団体の活動拠点となります。
●子育てに関する悩みや不安を抱える親に寄り添いながら、様々な支援制度を円滑に利用できるようサポートを行います。

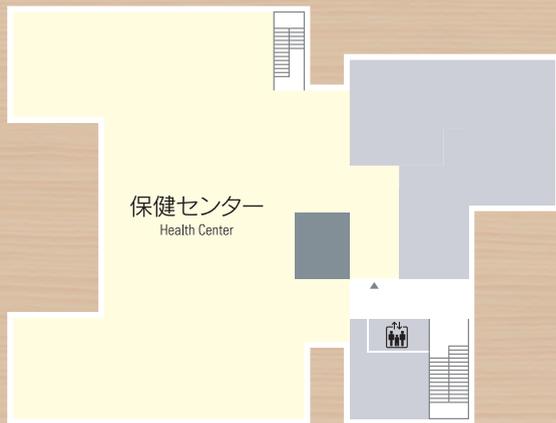


屋根の上のひろば



保健センター

西棟 3F



保健センター

【保健センター】

●母子保健や成人保健、食育や健康づくりなどの保健サービスを提供する子育て・健康づくりの拠点です。

man^{マノ}oが目指すもの

少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化などの影響により、子育て家庭が孤立し、子育てに悩み、疲れる親が増えていることが全国的な問題になっており、地域・社会全体で子育て家庭を応援し、支えていくことが求められています。

また、超高齢社会の到来を見据え、要介護状態にならず、健康寿命を延ばすための健康づくりのサポートを充実させることも大切です。

一方、市の中心部に位置する可児駅前では、まちのイメージに直結する駅前地区のにぎわい及び市の顔づくりも重要です。

このような市が抱える政策課題を踏まえ、可児市は基本的な考え方を整理し、平成26年3月に“子育て支援機能を中核とし、市民の健康づくり、多世代交流によるにぎわいを創出する空間の整備の必要性”を打ち出し、ここにman^{マノ}oが誕生することとなりました。

市は「住みごこち一番・可児 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造」を、市政により実現する姿として掲げ、重点方針のひとつである「子育て世代の安心づくり」の実現に向けて取り組んでいます。

少子化を止めることはできませんが、今いる子どもたち、そしてこれから生まれてくる子どもたちを、家庭、地域、関係機関が手を取り合って育て、全ての子どもたちがそれぞれの力を磨き、自分の夢に向かって成長していけるよう可児市は支援していきます。

man^{マノ}oはその取り組みを力強く推進する役割を担い、「『可』能性あふれる『児』どもがそだつまち・可児」のシンボルとして末永く愛される空間となるよう努めてまいります。



mano
Kani-city Family life Plaza

にこっと
可児市中央児童センター

子育て健康プラザ「mano」

“mano”はイタリア語で手という意味です。
子育て健康プラザが、子育て支援や健康づくりなど、手と手を合わせて支え合う場所、また市民が生き生きと交流し手と手をつなぐ場所となることをイメージしています。

中央児童センター「にこっと」

中央児童センターが、誰もがにこにこ、笑顔で楽しく過ごせる場所になることをイメージしています。

中山七里氏メッセージ

可児市在住で、数々の話題作を生み出している人気作家、中山七里氏による、今を生きる子どもたちへのメッセージパネルです。
子どもの育ちへの思いを、無限の可能性を秘めた子どもの未来への期待とともに、力強く簡潔に表現していただきました。



174

海老衣子と「ベビーブック」 ～未来につなぐ先人の思い～

明治34年可児郡久々利村に生まれた衣子は、日本女子大学卒業後、雑誌編集者として活躍。昭和8年には、子どもの発達を記録でき、育児の知恵も掲載した「ベビーブック」を出版しました。母子健康手帳の原形とも言えるこの「ベビーブック」は、増刷を重ね、当時の子育てに奮闘する人々を応援しました。
‘マイナス10ヵ月からつなぐまなぶかわる子育て’に取り組む可児市には、すでに昭和初期に妊娠期からの子育てに活躍していた先人の存在がありました。
その功績を顕彰しmanoに刻むとともに、その思いはmanoにおいて実現していきます。



175

岐阜県産の木材を使用

manoに一步足を踏み入れたとき、最も印象的なのは家具や内装にふんだんに木が使われていることです。
どっしりとした椅子はナラの無垢材、床はスギの圧縮材、天井ルーバーはヒノキ材など。これらの木材はいずれも岐阜県の森から伐り出されたもの。
どこか懐かしい、優しい雰囲気て私たちを包んでくれます。



169



152

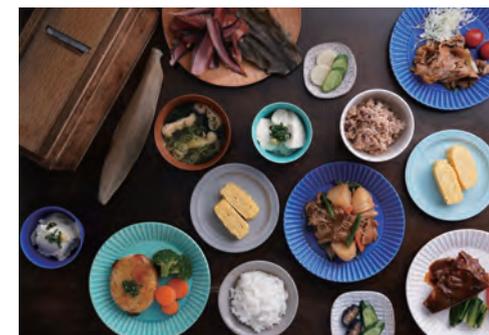


172



ステンドグラス「緑の風」

manoの傍を流れる可児川のせせらぎと川面を風く風をイメージした、(有)可児ガラス工房によるステンドグラス(東棟3階 絆る～む)



カフェレストラン iMakoya (いまこや)

昆布と鰹節でとった出汁は、古くから愛され続ける日本人の心のふるさとの味。
iMakoyaは昔ながらの和食に現代のエッセンスを加えた創作和食を気軽に楽しんでもらう、子育て中の親子から年配の方まで、おいしい笑顔が溢れる空間です。
店名の「iMakoya」はみんながくつろげる居間・家(小屋)に、「今、来やあ」と温かく迎え入れる、店のコンセプトを表しています。

設計者／香山 壽夫 (香山壽夫建築研究所)



Architect
Hisao Koyama

子育てを中心に、そのまわりにお年寄りから若者までが集まり、さらにまちの外からも人々が誘われて来る、そういう他にない施設を設計することは、建築家にとっては、誠に楽しくやりがいのある仕事でした。

またこの敷地は、駅前広場の正面にあり、そのむこうに美しい川辺の緑が広がる、素晴らしい場所です。

駅からの人の流れを招き入れ、また川辺を歩く人を中に誘い込み、そしてさらに中に集う人の楽しいにぎわいが、四方にむかって溢れでる、そういう建築を作らねばならない、と思いました。

これから、多くの人に愛されて、長く使われることによって、この建物が一層強く大きな光を放っていくことを願っております。



建築概要

西棟	敷地面積	3,066.19m ²	建物構造	鉄骨造3階建て
	建築面積	2,469.84m ²	延床面積	5,329.54m ²
	主な機能	1階 中央児童センターにこっと、カフェレストラン「iMakoya」、クッキングスタジオ、健康スタジオ、manoショップ、みんなの書齋、なかのひろば、そとのひろば、授乳室		
		2階 市事務室(子育て支援課・こども課・健康増進課、相談室他)、市民支援室、研修会議室1・2		
		3階 保健センター		
東棟	敷地面積	1,873.48m ²	建物構造	鉄骨造3階建て
	建築面積	1,615.21m ²	延床面積	3,659.30m ²
	主な施設	1・2階 自走式立体駐車場(駐車台数90台)		
		3階 子育てサロン「絆る〜む」、屋根の上のひろば		
その他	●連絡通路(西棟と東棟を結ぶ通路)			
	鉄骨造1階建て	建築面積:86.40m ²	延床面積:86.40m ²	
	●県産材使用量	内装木質化/スギ・ヒノキ:93.4m ³ 木製家具/ナラ:9.9m ³ ヒノキ合板(面積):21.1m ²		



可児市子育て健康プラザmano シンボルマーク

様々な市民が集う子育て健康プラザ。手をつなぐ三人が囲む真ん中に、可児市・子育て・健康・交流の頭文字Kが浮かび上がります。軽やかに活動する人々を連想させるこのマークは、子どもの未来を表す夜明け前の空と美濃桃山陶を代表する志野をイメージした配色となっています。

Photo Credits

甘利弘樹:表紙
株式会社ラン:P.13 カフェレストラン「iMakoya」
日刊建設通信新聞社:P.14 香山壽夫近影
小川重雄:上記を除く使用写真

[アクセス]

- 電車
名鉄名古屋駅より約60分/新可児駅下車、徒歩0分
JR岐阜駅より約50分/可児駅下車、徒歩0分
- 自動車
東海環状自動車道可児御高ICから約10分

所在地	岐阜県可児市下恵土一丁目100番地 (JR可児駅、名鉄新可児駅前)
開館時間	午前8時30分～午後9時
休館日	毎月第1土曜日、12月29日～翌年1月3日
駐車場	自走式立体駐車場(90台)
開場時間	午前8時～午後9時30分
使用料	100円/30分
	最初の1時間は一律無料 ※施設利用者は一定時間無料

●お問い合わせ

Tel:0574-62-1111 ※可児市役所代表番号
平日のみ8:30～17:15(市事務室 子育て支援課)
Mail: mano@city.kani.lg.jp

